



決算説明資料

2023年3月期 1Q決算 (22/4-22/6)

2022年8月1日

中期経営方針

<ビジョン>

- ・持続的（Sustainable）成長を目指し、すべてのステークホルダーに価値を創造する
- ・あらゆる環境変化に適応する強靱な（Resilient）組織をつくる

<事業ポートフォリオ>

- ・デジタルソリューション事業(DS。特に半導体材料事業)、ライフサイエンス事業(LS)をコア事業とする

<ターゲット>

- ・DS&LSで25/3期に過去最高益の更新、ROE 10%以上、ROIC 最大化を目指す
- ・資本配分は事業投資を最優先。株主還元は50%程度をガイドラインとする

<事業戦略>

■デジタルソリューション事業

- ・半導体材料:CAGR 8%以上(シリコンウエハー面積市場成長の倍)。M&Aを含めた事業規模・分野の拡大。
- ・ディスプレイ材料:選択と集中による事業最適化。利益成長への移行。エッジコンピューティングは売上成長加速。

■ライフサイエンス事業

- ・売上高 1,000億円超、ROS 20%を達成。
- ・CDMO, CRO中心としたパイプライン拡大による売上成長の加速。グループ全体のシナジー強化により持続的成長を実現。

■合成樹脂事業

- ・特殊ABS製品を強みに安定した利益の確保。

※詳細は2022年5月24日発表の経営方針説明会資料をご参照ください。

<2023年3月期第1四半期実績>

- ・第1四半期は、コア営業利益62億円となり、YoY増収減益。
- ・主要対面市場である半導体、ラインサイエンス分野は堅調に推移。為替の影響も受け増収要因となった。
- ・一方利益は先行投資の影響、ディスプレイ、自動車分野の市場低調、又昨年度を含む四半期の特殊要因により減益。
- ・通期見直しにつき、最新の為替、対面市場の動向、及び固有の要因を反映させ、今回見直しを行った。
(修正計画) 売上高4,205億円(前回計画比：+105億円)、コア営業利益550億円(同：-25億円)。

<デジタルソリューション事業>

- ・半導体材料はYoY+17%の売上成長となった。需要全般の状況、半導体メーカーの先端分野への取り組みは旺盛に継続。当社もEUVの展開をはじめ堅調に推移した。一方計画対比では一部物流の停滞、出荷期ずれ等の影響を受けた。
- ・ディスプレイ材料は市況の低迷により5月以降LCDパネルメーカーの急激な稼働調整が発生し販売が減少した。
- ・先端ロジックを含む主要半導体は引き続き堅調を見込むも、一部最終デバイス需要の下落、又ディスプレイ材料については1Q発生の顧客稼働調整が今年度継続する前提において、通期見直しに反映させた。

<ライフサイエンス事業>

- ・YoY+39%と強い売上成長を達成。各セグメントとも競争力ある製品と強い需要環境で売上収益を拡大した。
- ・CDMOの新拠点からの売上が第1四半期から発生。一方依然先行投資の状態によりYoY減益、QoQ小幅増益に留まる。
- ・CDMOの立上げ計画を今回見直し。製造インフラの強化を優先することとし損益見通しを下方修正した。(後述)

<その他>

- ・需要環境の変化には継続して細心の注意を払っていく。又原料資材価格の高騰等についても適切に対処していく。

決算ハイライト 1 – 実績vs計画



		22Q1 Act	FY22 Pro (as of Apr.25)	Progress (億円)
連結	売上収益	933	4,100	23%
	コア営業利益	62	575	11%
	営業利益	73	575	13%
	親会社所有者帰属利益	57	460	12%
デジタルソリューション	売上収益	429	1,870	23%
	半導体材料	305	1,295	24%
	ディスプレイ材料	104	460	23%
	エッジコンピューティング	20	115	18%
	コア営業利益	77	430	18%
ライフサイエンス	売上収益	227	1,150	20%
	コア営業利益	0	140	0%
合成樹脂	売上収益	228	1,000	23%
	コア営業利益	-5	65	-
その他・調整額	売上収益	49	80	61%
	コア営業利益	-10	-60	-
Exchange rate (USD/JPY)		130	116	

※コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

- 2022年4月発表の計画に対し、利益計画の進捗率は低い結果となった。
- デジタルソリューション事業：半導体材料は堅調に販売は伸びたものの、出荷タイミングの影響により、当四半期としては計画より低い進捗となった。ディスプレイ材料は想定以上のパネルメーカーの稼働調整が発生し計画比未達となった。
- ライフサイエンス事業：CRO及びIVDは計画を上回る進捗だったものの、CDMOが計画対比遅れた。
- 合成樹脂事業：自動車業界の回復遅れの影響を受けた。当期固有の会計要因による利益のマイナス影響も生じた（通期で解消予定）。

決算ハイライト 2 – YoY, QoQ



		21Q1	22Q1	YoY	21Q4	22Q1	QoQ
連結	売上収益	823	933	+13%	844	933	+11%
	コア営業利益	126	62	-50%	10	62	+514%
	営業利益	111	73	-35%	17	73	+338%
	親会社所有者帰属利益	82	57	-30%	19	57	+197%
デジタルソリューション	売上収益	393	429	+9%	417	429	+3%
	コア営業利益	104	77	-27%	27	77	+187%
ライフサイエンス	売上収益	163	227	+39%	191	227	+19%
	コア営業利益	12	0	-97%	-7	0	-
合成樹脂	売上収益	238	228	-4%	199	228	+14%
	コア営業利益	19	-5	-	3	-5	-
その他・調整額	売上収益	29	49	+65%	36	49	+35%
	コア営業利益	-9	-10	-	-13	-10	-
Exchange rate (USD/JPY)		109	130	+18%	116	130	+12%

(億円)

※親会社所有者帰属利益を除き継続事業のみ表示

YoY : 増収減益

デジタルソリューション：市場悪化による減収あるも、円安の恩恵や半導体材料の販売増があり増収。

ディスプレイ材料の減収、及び半導体での先行投資の負担増、前年含む費用の特殊要因によりYoYは減益。

ライフサイエンス：各サブセグメントの売上収益が大幅に拡大し増収するも、CDMOの固定費増により減益となった。

合成樹脂：自動車減産による数量減及び売買スプレッド縮小等により減収減益。

QoQ : 増収増益

デジタルソリューション：為替影響や前Qは減損発生により増収、増益。

ライフサイエンス：各サブセグメントの売上収益増により増収増益。

合成樹脂：原料高騰によるスプレッド縮小及び会計要因により増収減益。

通期予想<修正後>

<2022年8月1日改定値>

		FY21 Act	FY22 Pro (as of Apr. 25)	FY22 rev Pro	YoY	Pre Pro vs Rev Pro +/-
連結	売上収益	3,410	4,100	4,205	+23%	+105
	コア営業利益	433	575	550	+27%	-25
	営業利益	438	575	560	+28%	-15
	親会社所有者帰属利益	373	460	435	+17%	-25
デジタルソリューション	売上収益	1,650	1,870	1,875	+14%	+5
	半導体材料	1,103	1,295	1,370	+24%	+75
	ディスプレイ材料	459	460	410	-11%	-50
	エッジコンピューティング	88	115	95	+7%	-20
	コア営業利益	390	430	465	+19%	+35
ライフサイエンス	売上収益	725	1,150	1,200	+66%	+50
	コア営業利益	32	140	90	+184%	-50
合成樹脂	売上収益	906	1,000	1,050	+16%	+50
	コア営業利益	53	65	55	+3%	-10
その他・調整額	売上収益	129	80	80	-38%	+0
	コア営業利益	-42	-60	-60	-	+0

Exchange rate (USD/JPY) *	112	116	135	+20%	19
---------------------------	-----	-----	-----	------	----

減価償却費 **	194	235	235	+21%	0
資本的支出	419	360	360	-14%	0
研究開発費	241	255	255	+6%	0

今後の見通し

■ デジタルソリューション事業

ー 半導体

一部メモリー分野での稼働調整を織り込み。先端半導体の需要及びEUV含む次世代開発は堅調。出荷タイミングの要因もあり1Q底に2Q以降の販売拡大を見込む。

ー ディ스플레이材料

足元の顧客業界の急激な稼働調整を反映。年度中盤に向け厳しい状態の継続を見込む。OLED、光IPS等の拡販への取り組みを積極的に進める。

ー エッジコンピューティング

スマホ市場の低迷を受け通期見通し引き下げも、拡販により対前年増収を見込む。

■ ライフサイエンス事業

CDMOの稼働計画を想定から引き下げた。引き続き大幅なYoY増収増益を見込む。セグメント全体で需要動向そのものは良好。

■ 合成樹脂事業

部材不足による自動車生産の回復遅れは、下期に向け解消に向かうと見込む。フォーミュラ含む価格転嫁も進める。

*為替前提：2022年4月25日公表のFY22Proの為替はFY21Q4の実績、今回公表のFY22 rev proは足元の想定レートを使用。
為替感応度は1円円安で5億円程度の影響を見込む。減価償却、資本的支出、研究開発費は期初想定為替のままとした。

**IFRS16号によるリース資産償却を含まず

※親会社所有者帰属利益を除き継続事業のみ表示

セグメント別損益：デジタルソリューション事業

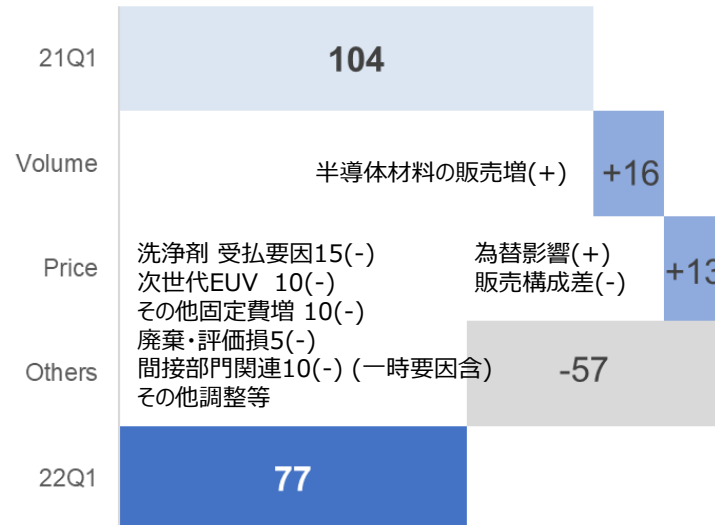


(億円)

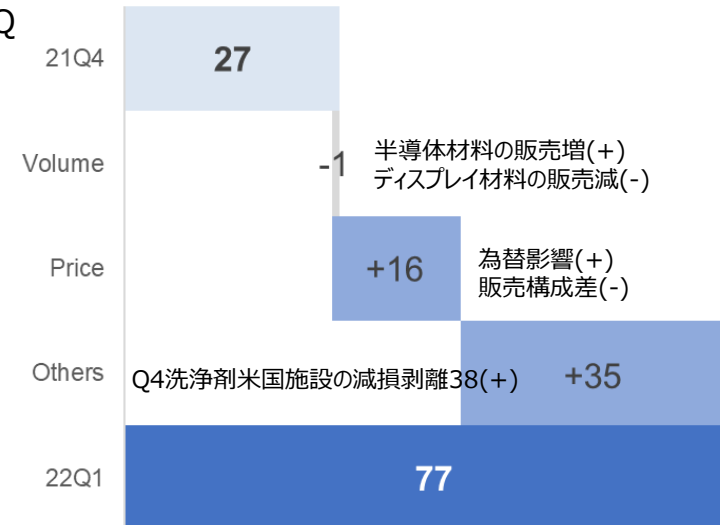
	21Q1	22Q1	YoY	21Q4	22Q1	QoQ
売上収益	393	429	+9%	417	429	+3%
半導体材料	261	305	+17%	282	305	+8%
ディスプレイ材料	111	104	-6%	113	104	-8%
エッジコンピューティング	21	20	-5%	22	20	-9%
コア営業利益	104	77	-27%	27	77	+187%
コア営業利益率	26.6%	17.8%		6.4%	17.8%	
Exchange rate (USD/JPY)	109	130	+18%	116	130	+12%

コア営業利益差異分析(億円)

YoY



QoQ



Appendix : DS事業 主要製品売上推移



SEMI	YoY ytd	QoQ
EUV	+50%程度	-5%程度
ArF	+20%程度	+10%程度
多層材料	+5%強	+5%程度
その他リソグラフィ材料	+25%程度	+10%程度
CMP材料	+25%程度	+20%強
洗浄剤	+45%強	+20%弱
実装材料	+5%程度	+10%程度

Display	YoY ytd	QoQ
配向膜	横ばい	-5%弱
絶縁膜	+5%強	微減
着色レジスト	-65%程度	-35%程度

Edge	YoY ytd	QoQ
ARTON	-5%程度	-15%弱

セグメント別損益：ライフサイエンス事業



(億円)

	21Q1	22Q1	YoY	21Q4	22Q1	QoQ
売上収益	163	227	+39%	191	227	+19%
コア営業利益	12	0	-97%	-7	0	-
コア営業利益率	7.3%	0.1%		-	0.1%	

Exchange rate (USD/JPY)	109	130	+18%	116	130	+12%
-------------------------	-----	-----	------	-----	-----	------

コア営業利益差異分析

YoY

	売上収益	コア営業利益
Total	+39%	-97%
CDMO	+35%程度	減益
CRO	+55%強	増益
BPM	+10%程度	減益
IVD	+40%強	増益

QoQ

	売上収益	コア営業利益
Total	+19%	-
CDMO	+20%強	増益
CRO	+10%程度	減益
BPM	+160%程度	増益
IVD	微増	増益

*BPM: バイオプロセス材料

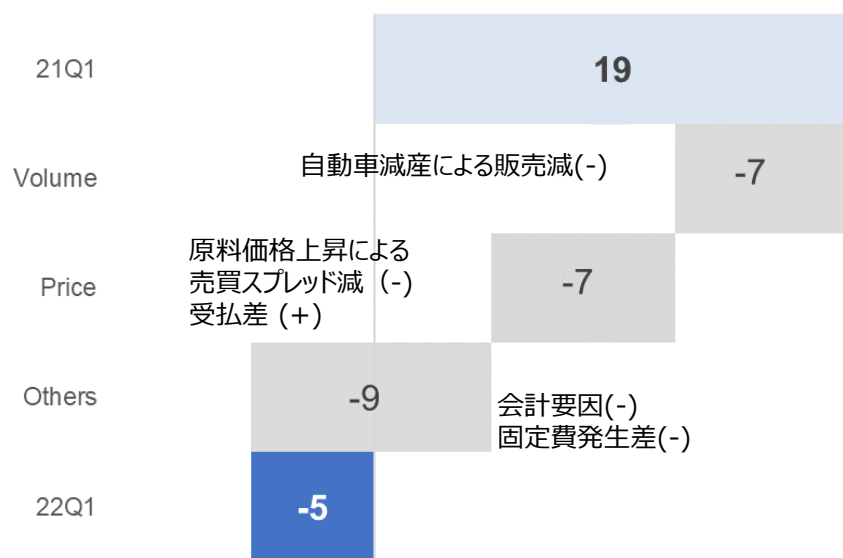
セグメント別損益：合成樹脂事業

(億円)

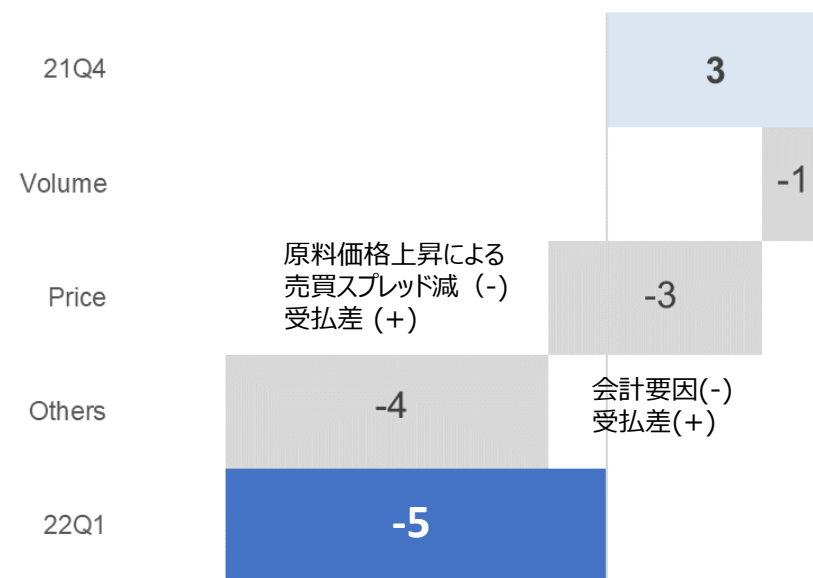
	21Q1	22Q1	YoY	21Q4	22Q1	QoQ
売上収益	238	228	-4%	199	228	+14%
コア営業利益	19	-5	-	3	-5	-
コア営業利益率	7.8%	-		1.4%	-	
Exchange rate (USD/JPY)	109	130	+18%	116	130	+12%

コア営業利益差異分析(億円)

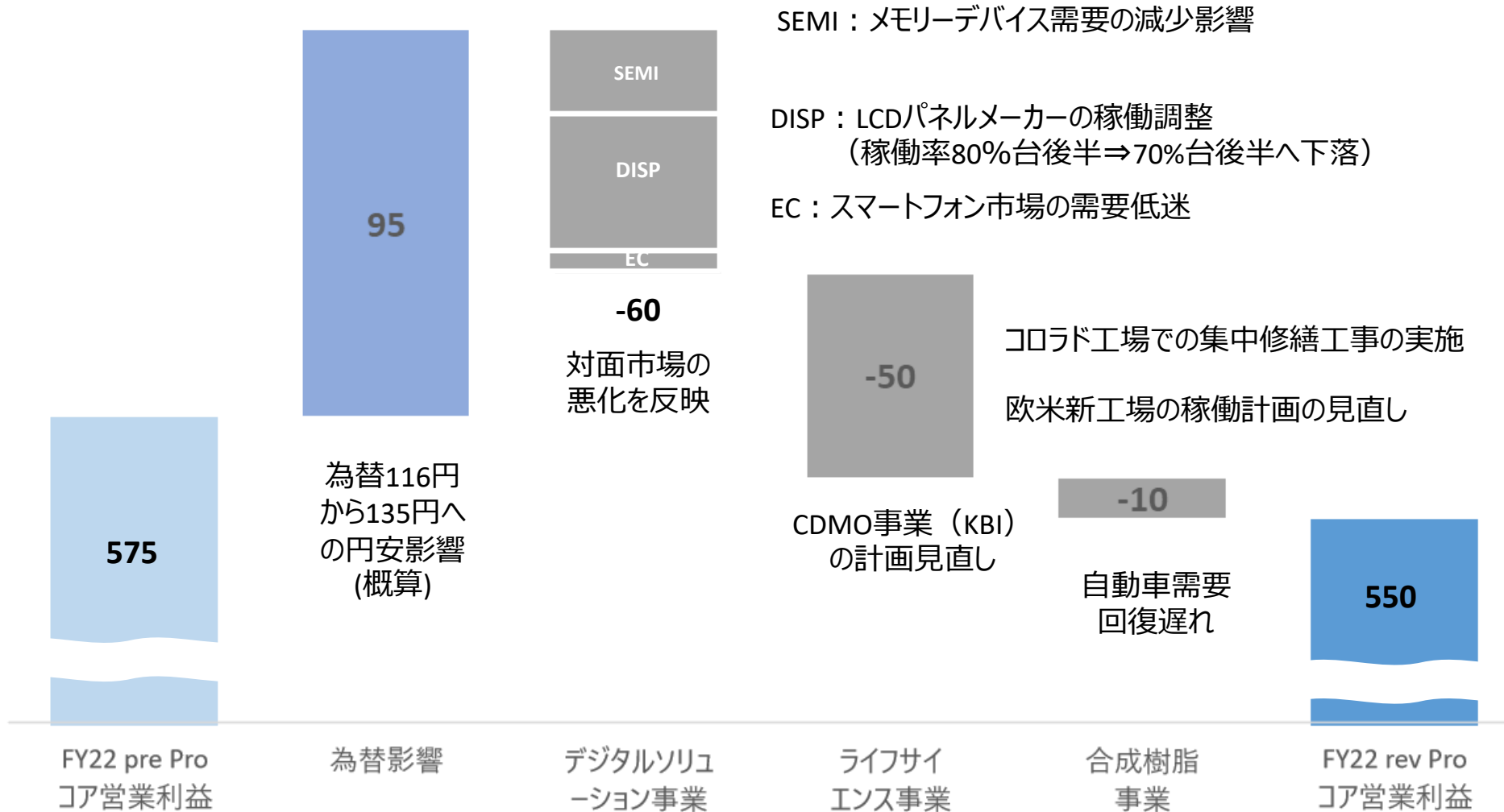
YoY



QoQ



【APPENDIX】業績見通し詳細



【APPENDIX】KBIの状況について



	1Q状況	当期の見通し
全社のオペレーション改善プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・戦略推進、業務プロセス改善、生産性向上、従業員エンゲージメントの向上を目的に全社プロジェクトを展開中。(FY21下期からFY22にて取組中。)・今回新CEOを加えプロジェクトのアクションをさらに強化。	<ul style="list-style-type: none">・戦略・オペレーション両面から中期的に大きな事業成長の機会が見いだされている。・そのため当期は事業&オペレーションインフラの強化を最優先する方針とし、併せて中期的成長を実現するために損益見通しを修正した。
欧米新工場の立上げ	<p>当初想定より遅れがあったが当Qに無事商業活動がスタート。</p> <ul style="list-style-type: none">・米新工場：商業生産開始。・欧新工場：分析サービス開始、初回生産を開始。	<ul style="list-style-type: none">・稼働率を保守的に見直し、安定操業を優先する政策としたが引き続きQ4にフル稼働の計画。・オペレーション自体は定常稼働へ移行済。生産計画についても顧客と十分に連携が取れている。
コロラド工場の稼働(微生物培養設備)	<ul style="list-style-type: none">・過去、想定外の設備修繕のため短期的な稼働停止が発生。根本的な解決に至らず。	<ul style="list-style-type: none">・微生物培養分野も中期的に成長領域。・今回、下期に約3ヶ月間、設備の稼働を停止し、根本的な修繕を実施することとした。
その他	<ul style="list-style-type: none">・顧客パイプライン、プロジェクト獲得・受注残高は良好。・動物細胞と微生物の設備は高い稼働を維持。・人員確保については改善しているものの、引き続き競争的な市場環境にさらされている。	<ul style="list-style-type: none">・生産能力拡充は前広に検討を行っていく。・人員確保の更なる向上のための計画を策定した。・マクロ経済の影響はマネージできる見通し。状況を注視し、必要な措置を積極的にとっていく。

【APPENDIX】連結損益計算書



(億円)

	21Q1	22Q1	YoY
売上収益	823	933	+13%
売上原価	505	616	+22%
売上総利益	318	317	-0%
販管費	193	254	+32%
その他の営業収益/費用	-13	10	-
持分法による投資損益	-1	-0	-
営業利益	111	73	-35%
金融収支	-1	24	-
法人所得税	27	41	+52%
継続事業からの当期利益	83	55	-34%
非継続事業からの当期利益	3	-	-
当期利益	86	55	-36%
親会社所有者帰属	82	57	-30%
非支配持分	5	-2	-

EPS(JPY)	37.98	27.09	-29%
EPS - 継続事業 (JPY)	35.26	27.09	-23%
EPS - 非継続事業 (JPY)	2.72	-	-

Exchange rate(USD/JPY)	109	130	+18%
------------------------	-----	-----	------

コア営業利益から営業利益までの調整

(億円)

	21Q1	22Q1
コア営業利益	126	62
子会社出資金評価損	14	-
子会社株式売却益	-	10
営業利益	111	73

【APPENDIX】連結財政状態計算書



	22/3E	22/6E	+/-
流動資産	4,370	2,755	-1,615
現金及び現金同等物	456	476	+21
営業債権及びその他の債権	761	985	+224
棚卸資産	1,049	1,123	+74
その他	191	152	-39
売却目的保有に分類される処分グループに係る資産	1,913	19	-1,894
非流動資産	3,724	3,927	+203
有形固定資産	1,595	1,665	+70
のれん	1,176	1,303	+127
その他の無形資産	246	263	+17
その他	706	696	-10
資産 合計	8,094	6,682	-1,412
流動負債	2,883	1,782	-1,101
営業債務及びその他の債務	635	723	+87
社債及び借入金	692	716	+24
その他	400	343	-56
売却目的保有に分類される処分グループに係る負債	1,156	0	-1,156
非流動負債	1,064	1,046	-18
社債及び借入金	487	489	+2
その他	576	557	-20
負債 合計	3,946	2,828	-1,119
親会社の所有者に帰属する持分	3,760	3,606	-154
非支配持分	387	248	-139
資本 合計	4,147	3,854	-293

(億円)

自己資本比率
(親会社所有者持分比率)
2022/3 E : 46.5%
2022/6 E : 54.0%

※継続、非継続両事業を表示

【APPENDIX】四半期推移



(億円)

		20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	21Q1	21Q2	21Q3	21Q4	22Q1
連結	売上収益	675	717	845	883	823	859	884	844	933
	コア営業利益	80	86	125	87	126	105	192	10	62
	営業利益	80	62	123	77	111	117	192	17	73
	親会社所有者帰属利益	11	-18	73	-618	82	94	178	19	57
デジタルソリューション	売上収益	363	374	384	393	393	413	427	417	429
	コア営業利益	78	91	97	79	104	91	167	27	77
ライフサイエンス	売上収益	126	135	142	148	163	174	196	191	227
	コア営業利益	8	8	13	6	12	8	19	-7	0
合成樹脂	売上収益	162	164	225	241	238	240	229	199	228
	コア営業利益	5	2	18	19	19	16	16	3	-5
その他・調整額	売上収益	24	43	95	101	29	32	32	36	49
	コア営業利益	-11	-15	-4	-17	-9	-10	-10	-13	-10
Exchange rate (USD/JPY)		108	106	105	106	109	110	114	116	130

※コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

※親会社所有者帰属利益を除き継続事業のみ表示

FY22Q2
決算発表

2022年10月31日

同日、金融機関向け説明会を実施予定

・本資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいております。
実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。